◆◆母性看護学実習

目的

妊婦･産婦･褥婦および新生児とその家族を理解し、対象に応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。

目標

1　妊婦・産婦・褥婦および新生児の正常な経過を理解できる。

2　妊婦・産婦・褥婦および新生児の特徴を理解し、対象の安全・安楽・プライバシーに配慮して基本的援助が実践できる。

3　妊婦・産婦・褥婦およびその家族に対する保健活動および継続看護について理解できる。

4　家族を含めた母子関係確立のための支援について理解できる。

5　生命観や母性・父性観を深めることができる。

実習内訳

科　目		単位（時間）
母性看護学実習	臨地実習	（80 時間）
	実践活動外学習	（10 時間）
合　計		2 単位（90 時間）

実践活動外学習

目　的	内　容	時間数
1　実践活動をイメージし、実習目標達成に必要な準備を整える。	(1)実習施設の構造、指導体制 (2)目的・目標・進め方 (3)事前学習 (4)安全な看護技術のシミュレーション	２時間
2　実習目標の達成に向けた到達状況を査定し、より質の高い実践活動に向けて取り組む。	(1)受け持ち妊婦・産婦・褥婦・新生児の経過と看護についての学習の確認と思考の整理、文献検索 (2)実習を振り返り、グループ間で学びを共有 (3)実習を通して学んだ、母性特有の安全を守る技術の意見交換 (4)フリースタイル出産、高度生殖医療等のＤＶＤ視聴をとおして、より深い視点から母性・父性について意見交換、文献検索	８時間

母性看護学実習（妊婦の看護）

行動目標	実習内容	実習方法
1 妊婦の身体的変化および心理・社会的変化が理解できる。	1）妊娠週数に伴う生理的変化 (1) 全身の変化 (2) 子宮の変化 (3) 胎児の変化 (4) 乳房の変化 2）妊娠中によく起こる不快症状 (1) つわり　(2) 便秘　(3) 頻尿 (4) 腰背部痛　(5) 下肢けいれん (6) 静脈瘤　(7) 痔　(8) 浮腫 (9) 帯下　(10) 瘙痒感 3）妊婦の心理・社会的側面の特徴 (1) 妊娠の受容（妊娠に伴う身体的変化に対する妊婦の気持ち） (2) 日常生活の調整 (3) 生活・育児環境・顕在的背景 (4) 家族・配偶者の妊娠の受容	【事前学習】 ①妊娠週数に伴う母体の変化と胎児の発育 ②妊婦健康診査の目的・内容 ③妊娠各期の観察と保健指導の内容 ④ＮＳＴ検査の目的・胎児の健康状態の判定方法 1－ 1)～3) (1) 妊娠初期・中期・末期の妊婦の中から１または２名を受診予定者から選択し、カルテや母子健康手帳から情報を得る。 (2) 診察時や、保健指導を受けている時、また妊婦とコミュニケーションをはかる機会があった時に、 妊婦の発言から情報を得る。
2 妊婦に必要な援助を理解できる。	1）妊婦健康診査 (1) 診察の準備　(2) 診察の介助 (3) 診察を受ける妊婦の準備 (4) 血液検査　(5) 体重測定 (6) 血圧測定　(7) 妊娠反応 (8) 尿検査　(9) 胎盤機能検査 (10) 子宮底長の測定 (11) 腹囲測定 (12) 胎児心音聴取 (13) レオポルド触診法 (14) 内診の介助 (15) 超音波断層撮影の介助 (16) ＮＳＴ検査 2）個別指導と集団指導 (1) 妊娠各期の指導 (2) 母親・両親学級 3）共感的態度 (1) 妊婦に関心を示す声かけ (2) 相手を尊重し支持する態度 4）プライバシー保護 5）環境の調整 6）母子保健行政 (1) 妊娠の届出 (2) 母子健康手帳交付・活用 (3) 妊婦健康診査 (4) 保健指導 (5) 産前休暇	2 －1)2) (1) 妊婦健康診査の流れに沿って受け持ち妊婦に付き添い、診察や検査、計測の見学および実施を行う。 (2) ＮＳＴ検査は陣痛室で行われる場合が多い。⇒妊婦と一緒に陣痛室まで付き添い装着方法と判定方法を学ぶ。 (3) 機会があれば受け持ち妊婦以外の妊婦健康診査の見学や診察場面での介助を行う。その際は、事前に了承を得る。 (4) 機会があれば、妊娠初期・中期・末期の保健指導を見学する。 (5) 機会があれば、集団指導（母親・両親学級）の実際を見学する。 ＜見学時の留意点＞ ・事前に担当者に承諾を得る。 ・時間、場所、見学可能な学生数を確認する。 ・見学の目標を発表してから参加する。 3 －1)～3) (1) 機会があれば、関わりを持つことで学ぶ。 4 －1) (1) 妊婦健康診査、保健指導場面の中で意義について考えていく。 【事前学習】 母子保健対策について ・妊娠の届出と母子健康手帳の交付 ・妊婦健康診査　・保健指導 ・産前休暇など、勤労妊婦に対する法律

母性看護学実習（産婦の看護）

行動目標	実習内容	実習方法
1 分娩経過や分娩各期に必要な援助が理解できる。	1）母子に影響を与える可能性のある分娩前の情報 (1) 非妊娠時の健康状態 (2) 既往妊娠・分娩歴 (3) 今回の妊娠・分娩経過・児の状態 (4) 妊娠、分娩における対象の心理社会的状態 (5) バースプランについての把握 2）分娩各期の観察と援助 (1) 母体の健康状態に関する観察と援助 (2) 胎児の健康状態に関する観察と援助 (3) 分娩進行に関する観察と援助 ① 分娩進行状況の把握 ② 産痛緩和（呼吸法、補助動作等） ③ 分娩経過に応じた日常生活の援助 ④ 励ましの声かけ 3）家族への対応・指導 (1) 夫・家族の関心度や協力 (2) 産婦との関係性 (3) 家族に対する支援	【事前学習】 ①分娩各期の経過と観察 ②看護学習記録 №3 産婦看護計画(分娩第Ⅰ期～Ⅳ期）分娩各期の援助 1 －1)～3) (1) 分娩期にある産婦を受け持ち、実習する。 (2) 外来カルテ、分娩経過表（パルトグラム)、入院時記録から、産婦の状況を把握する。 (3) 産婦の状況を看護学習記録にまとめ、援助計画を立案する。 (4) 援助計画を指導者または担当助産師に発表し、助言を受け修正する。 (5) 援助計画に沿って、分娩各期に応じた援助を指導者または担当助産師または教員と共に実施する。 (6) 立会い分娩の意義および、家族への関わり方について考える。
2 母子関係を円滑にする援助が理解できる。	1）母子関係を円滑にする援助 (1) 母子対面（早期母子接触） (2) 母親および家族へのねぎらいの声かけ	2 －1) (1) 母子の早期接触の場面においては、その目的を考えて、環境づくりを行う。 (2) ねぎらいの声掛けを行い出産の喜びを産婦および家族と分かち合う。 ＊分娩がない場合も想定して行動計画を立案しておく。 （例１）分娩期の補助動作・呼吸方法の練習と指導を考える。 （例２）分娩台に乗り体位を保持し効果的な怒責の方法と指導を考える。 （例３）分娩監視装置の装着方法や実際の所見から陣痛や胎児の状態をアセスメントする。 （例４）胎盤の計測・観察から胎児付属物について知識を深める。 （例５）出生直後の新生児の観察と看護を模擬実施する。 （例６）沐浴の模擬指導を実施する。

母性看護学実習（褥婦の看護）

行動目標	実習内容	実習方法
1 褥婦の身体的変化および心理・社会的変化が理解できる。	1）退行性変化（復古状態）の観察 (1) 子宮の復古、悪露、後陣痛 (2) 外陰部、肛門 (3) 腹壁 2）進行性変化の観察 (1) 乳頭、乳輪部 (2) 乳房の変化、 乳汁分泌状態 （乳汁分泌のメカニズム） 3）全身状態 (1) バイタルサイン (2) 排泄の状態（排尿･排便） (3) 顔色、疲労の有無 (4) 貧血の有無（Hb、Ht）と程度 (5) 浮腫の有無 4）母親役割取得状況 (1) 妊娠・分娩に対する受け止め方 （バースレビュー） (2) 育児に関する知識・技術の習得 (3) 母性意識の変化 (4) 母子相互作用 (5) 育児不安、マタニティブルーズ	【事前学習】 ①産褥日数に応じた変化とその看護（退行性変化と進行性変化を促すための援助など） 1 －1)～4) (1) できれば、産褥日数の浅い褥婦を受け持つ。 (2) マタニティ診断による看護過程の展開を行う。(基本はウエルネス型看護診断を行うが、異常の場合は実在型・リスク型看護診断を用いる。) (3) 外来カルテ、分娩時の記録から、妊娠～分娩の経過について情報を得てアセスメントする。 (4) 毎日、復古状態、全身状態、授乳の状況を観察し、褥婦の経過をアセスメントする。 (5) 分娩時のバースレビューの記録からも情報を得る。 (6) コミュニケーションをはかりながら、退院後の生活について情報を得て、保健指導に活かす。
2 セルフケア能力を高めるための援助ができる。	1）退行性変化を促進するための援助 (1) 早期離床 (2) 子宮底の輪状マッサージ (3) 排泄指導 (4) 外陰部の清潔 (5) 産褥体操 (6) 直接授乳 2）進行性変化（母乳栄養確立）を促進させるための援助 (1) 初回授乳指導 (2) 直接授乳の観察と介助 (3) 乳房マッサージ実施状況の観察と指導 (4) 搾乳指導（残乳処理） (5) 乳頭トラブルに対する援助 (6) 乳房トラブルに対する援助 (7) 睡眠、休息、栄養に関する指導 3）親役割獲得への援助 (1) 分娩後早期の母子対面 （早期母子接触） (2) 育児技術習得への援助 (3) 母親への適応過程に応じた関わり (4) 睡眠・休息・ストレスへの配慮	2 －1)～6) (1) 観察・援助の実施に際しては、指導者または教員と共に実施する。 (2) 退行性変化、進行性変化を促進するための援助を行う。 (3) セルフケアを高める関わりを行う。 (4) 褥婦の心理的特徴を配慮した声かけを行う。 (5) 原則として母子一体で関わるため、新生児の情報も活用する。 (6) 経産婦の場合は、上の子どもについての情報を得て、退院後スムーズに適応できるようにサポートする。 (7) 保健指導を行う際は、褥婦の状況に応じて指導計画を立案し、褥婦に渡すパンフレット等があれば指導案と共に、教員と指導者に早めに提出する。助言を受け、修正・追加した後、指導者または教員の同席のもと保健指導を行う。 (8) 保健指導（集団指導）を見学する際は、見学の目標を明確にして見学する。（①行動計画に記載する。②見学前に指導担当者に目標を報告する。）

母性看護学実習（褥婦の看護）

行動目標	実習内容	実習方法
	4）新しい家族関係確立への援助 (1) 夫・家族のサポートシステム (2) 家族の役割分担の調整 (3) 新しい兄弟（姉妹）関係を形成させるための支援 5）育児指導 (1) 沐浴指導 (2) 母児同室指導 (3) 授乳指導 (4) 調乳指導 (5) 退院指導（児の健康管理を含む） 6）退院後の生活指導 (1) 退院後の動静と注意点 (2) １カ月健診の必要性について (3) 家族計画	
3 母子保健に関連する諸機関および関連職種と諸制度について理解できる。	1）母子保健対策 (1) 出生に関わる届け出 (2) 新生児訪問指導 (3) 母子健康手帳の活用法 (4) 産後休暇 (5) 育児時間 (6) 育児休業 2）母子保健医療チームにおける助産師・保健師・看護師・医師・栄養士・ＭＳＷの役割	3 －1)2) (1) 機会があれば、受け持ち褥婦への出生届の手続きおよび母子健康手帳の活用方法についての説明を見学する。 (2) 受け持ち褥婦に該当する母子保健対策について理解する。 【事前学習】 母子保健対策について ・出生に関わる届け出 ・新生児訪問指導 ・母子健康手帳の活用法 ・産後休暇 ・育児時間 ・育児休業
4 母性看護における継続看護について理解できる。	1）母性看護における継続看護 (1) 妊娠期から産褥期へ (2) 外来～病棟、病棟～地域 (3) 女性のライフサイクルにおける継続看護	4 －1) (1) 実習を通して学んだことを、カンファレンスで討議し考えをまとめる。
5 生命観や母性・父性観について考えられる。	1）生命観 2）母性観・父性観	5 －1)2) (1) 実習を通して学んだことを、カンファレンスで討議し考えをまとめる。

母性看護学実習（新生児の看護）

行動目標	実習内容	実習方法
1 新生児の生理的変化が理解できる。	1）出生直後の児の健康状態に影響を与える情報の把握 (1) 胎芽・胎児の成長・発達及びこれに影響を及ぼす因子 (2) 妊娠中の異常の有無 (3) 分娩経過の異常 （胎児心拍の変化など） 2）新生児の生理的変化 (1) 呼吸　(2) 循環　(3) 体温 (4) 消化・吸収（生理的体重減少含む） (5) ビリルビン代謝 (6) 腎機能 (7) 皮膚 (8) 原始反射	【事前学習】 ①胎外生活への適応過程における新生児の生理的変化及び看護 ②低出生体重児の定義、看護のポイント ③薬物療法 新生児に使用する薬剤 ・ビタミンK_2シロップ 1 －1)～2) (1) 母親の妊娠・分娩期の状態を外来カルテや分娩時の記録から情報収集し、アセスメントする（母子一体で関わるため褥婦の情報を活用する）。
2 新生児の成長・発達を促進するための援助ができる。	1）出生直後の新生児の援助 (1) 気道の確保 (2) アプガースコアの採点 (3) 低体温予防 (4) 臍処置 (5) 抗生物質の点眼 (6) 母児標識装着 (7) VS 測定 (8) 身体各部の計測 (9) 成熟度、奇形の有無など全身所見の観察 (10) 母（父）子対面 2）日常生活の援助 (1) 呼吸の維持 (2) 保温 (3) 清潔 (4) 栄養 (5) 感染予防 (6) 異常の早期発見 3）新生児の診察、検査、処置の目的と方法 (1) 初回診察 (2) ビタミンK_2シロップの与薬 (3) 先天性代謝異常検査（採血） (4) 黄疸の検査（採血） (5) 退院診察 4）安全への配慮 (1) 標識の確認 (2) 抱き方、寝かせ方 (3) コット移送 (4) 沐浴時の安全	2 －1)～4) (1) 分娩室の実習時に、出生直後の新生児の観察と援助を見学する。(受け持ち産婦の新生児以外の見学は、実習指導者に相談する) (2) なるべく日齢の浅い児を受け持つ。 (3) 受け持ち新生児の日齢や状態に沿った観察の視点をあげ、援助を計画し実施する。 (4) 援助に際しては、指導者または教員と共に実施する。 (5) 援助の結果や新生児の反応から、実施した援助を評価する。 (6) 新生児に必要な診察、検査、処置の介助を指導者または教員のもとで、一部実施する。